

901

後藤新平東京市長を辞す

大正十二年四月二十五日



?



後藤

「いいのが

出来たよ

か前よは

モ一用がよいよ

東京市



萬字巴の大騒ぎ

大正十二年五月三日



大正十二年五月七日



求人と求職

中央職業紹介所調査による最近一年間の職業求人及求職者の比較を
見れば重なる者左の如くである

製紙	八六四	二〇〇	四二二
衛生給仕	二、四七三	三、四三二	
事務員	二、四六六	四、八八八	
製版印刷	二、三六六	一、八〇七	二、六六九
小商店員	四、四四三	六六六	九八四
行商	四、八八八	一、二六九	一、二六二
金属工業	五、一六六	一、八八九	三、〇三三
外交集金	五、七三七	一、七三七	一、二六六
店員	七、一七三	七、九六二	四、四六六
商業其他	八、八八八	一、七三七	二、四六六
飲食店員	八、八八八	三、三三三	六、二六六
配達人	八、八八八	五、二九九	一、六六六
工業其他	八、八八八	二、〇三三	五、三三三
僕	二、〇三三	二、三三三	三、〇三三
商店建設	八、八八八	六、三三三	八、三三三

これによれば事務員の希望者が第一
一位で工業従事者がこれに次ぎ求人
に於ては商業建設を筆頭に機械工
業に次ぎ概して求職者より求人数
の多い傾向を示して居るが紹介件
数と求職者或は求人数と略同数の
点ありまた幾分の多過を示せる
は即ち創見を得に於て人選淘汰せ
られたるがためである

904

自殺者

大正十二年五月八日



年

数

大正六年

一〇一三

七年

一一六七

八年

一一〇四

九年

一〇三一

十年

一二八六

十一年

一三〇九

縊死

入水

自刃

毒藥

鉄道

銃

精神錯乱

病苦

生活困難

悲観

情死

痴情疾妬

慚愧

家庭不和

罪業覺悟恐れ

将来の苦慮

商賈の損失

離縁

私通妊娠

失恋

結婚を忌み

淫佚

厭世

不具の爲

原因

主たる方法

年齢

最多数
二十才ヨリ廿才次多数
五十才以上

905

大正十三年
五月八日

東京市長物色難



大軍之助
田主計
島像一
田政周
永田秀次郎
永田壽一
関直彦
下岡忠治
宇佐美勝生
仲小路 廉

906

天子向て唾する者

津浦鐵道土匪事件 大正十二年五月九日



昨



山東から
撒兵
しろ

今



アイタ...

早稻田騒動

軍事研究團と文化同盟



大正十二年五月十八日

境野黄洋と中島徳藏

東洋大学騒動



909

土匪

大正十二年五月十日

官憲

「外人を放釈して
下さいませんか」

土匪

「人前百萬元出せ
バチく釈してやる」

官憲

「高いですふ……
少しまけてゆい
でしやう」

土匪

「馬鹿を云へー！
グツク言ふと
貴様も縛るぞ」



910

露国官吏腐敗

大正十二年五月廿日



「レーニン
みんぞ腐つて
居やがる」

有罪官吏

三千二百六十五名

禁錮(二年乃至廿年)

二千五百名以上

死刑

六十一名



911

常の花優勝

大正十二年五月廿二日



阿多浦 三杉磯 若葉山 能代潟 白山岩 紅葉川 清瀬川 千葉崎 源氏山 琴ヶ浦

〇〇〇〇〇〇〇〇×〇〇△〇

913

東京市長決選投票
(永田秀次郎当選)



「永田
君ハ……豫期の通りサ。
一句おろろぐからずナリ。」



大正十二年五月廿五日

914

當春の收穫

(自三月一日
至五月廿二日)

大正十二年五月三十日



原虎太郎 柯風之
 高梨哲郎 柳谷謙太郎
 池辺義象 桜井龍二
 小島政治 朝比奈泰之助
 飯塚茂太郎 島村淳一
 戸狩權之助 小野金六
 龜井隆良 前川大兵衛
 日下義雄 利光平走
 伊治地正輔 藤篤教
 小泉日慈 大村徳敏
 井口在屋 加藤恒忠
 サラベナル 香川輝
 藤田虎力 渡辺平吉
 北川宮成久王 山下芳太郎
 海賀重哲 大島直道
 前田漢子 高田道見
 大海原尚義 大隈綾子
 對島健之助 小林市太郎
 江村伸三郎 田中常徳
 高橋善一 竹田常治
 横山寅一郎 伊達邦宗





第三表
壯丁身長表 (千分比例)

年次	x-4'8"	4'8"-	4'9"-	5'0"-	5'1"-	5'2"-	5'3"-	5'4"-	5'5"-	5'6"-x	合計
1912	17.7	31.6	72.8	139.0	193.0	211.0	165.9	99.7	45.2	22.1	1000.0
1912	16.8	30.3	71.2	138.6	194.4	211.6	167.8	100.3	46.8	22.2	1000.0
1914	16.8	30.2	72.0	136.3	194.2	210.0	167.6	102.5	47.3	23.1	1000.0
1915	17.1	30.2	71.9	136.3	193.3	209.8	168.1	102.6	47.6	23.1	1000.0
1916	15.4	28.7	69.3	134.5	192.6	212.0	170.8	103.8	48.7	24.2	1000.0
1917	15.3	28.3	67.2	132.3	192.0	211.9	171.2	106.6	50.3	24.9	1000.0
1918	15.0	28.3	66.3	131.8	190.1	211.2	172.2	107.8	51.5	25.8	1000.0
1919	13.2	25.5	63.1	127.1	187.8	212.3	176.9	111.9	54.0	28.2	1000.0
1920	12.2	24.5	61.0	124.4	187.0	210.9	179.0	115.4	56.2	29.4	1000.0
1921	11.5	23.6	61.1	121.2	184.1	213.0	179.7	116.9	58.1	20.8	1000.0

備考 4'8"=4尺8寸 以下之=倣フ

916

波斯大地震 死傷二千二百人
 大正十二年五月廿六日トルバク・ハイダリ地方

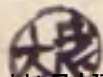
既成鐵道



龍野大

917

無政府主義秘密結社暴露
共產主義
大正十二年六月六日



918

大正十二年六月十一日



同躰相闘(支那の現状)

大正十二年六月十二日



920

漢字制限……よる由
開字制限

大正十二年六月十二日

重五殿洞六
門柱壁皆畫
雲氣華藻山
靈水怪或衣
以綈綿或飾
以金玉南門



921

ヨッ左

ゴライアスとダヴィッド

大正十二年六月十三日



川上俊彦



922

半身を交換したら

大正十二年六月十四日



923

白晝の強盗

大正十二年六月十五日



曹錕
「大總統」の
印綬を
渡せ

黎元洪
印綬は
渡すが
臍線
の方は勘弁
して呉れ





925

淫猥圖書横行
大正十二年六月十六日

戀心

性と愛恋

変態性慾



性と愛

未亡人性慾号

性の研究

性

性研究号



「發賣禁止
だぞ」



出版屋

「へ……
有り難ふ
ごういます」

大正十二年

六月十七日

松方
ヨッスとやら云ふ
奴は何物じゃ

西園寺

「後藤が呼び
寄せたシタ、力
者じゃもうか

清浦

「後藤の代り
永田とか云ふ
青二才が市長
にあられたと云ふじゃあいか

平田

「アハハ、松方さんから
見れば御同様ハ
青二才じゃ



成る程違ふ

大正十二年六月十八日



鑄型で
抜いて磨
いた顔



鑄みかけて
鍛へ上げ
た顔

928

放火狂(後藤新平)

後藤

「ヤー面白いぞ

おんどは

どおへ放火

してやろう

かしら

日露豫備交渉

東京市

大正十二年六月十九日



929

姫御せのあらまゝ



大正十二年六月二十日



東



西

931

孰れも美あり

大正十二年六月二十三日



「喂、あんまり困つたら日本へ
行くは限る」

「誰でも世界で
通るからな」

「但し富士山を
登るは限るよ」

「を忘るては
あらぬ」

「オット、まだ
ある……」



大正十二年六月廿四日

933

馬克暴落

(一円が六萬五千三百三十三マルク)



大正十二年六月二十五日



934

各國一人當砂糖消費高

大正十二年六月廿七日



比律賓	二四	
エクワドル	二四	支那
爪哇	二七	露国
埃及	二七	ヅ子ズエラ
チコスラウキア	三二	モロツコ
佛国	三五	ユーゴスラヴィア
白耳義	四四	ブルガリア
獨逸	五四	伊太利
南米	五六	ルーマニア
アルヘンチナ	五七	波蘭
和蘭	六八	日本
英國	七〇	匈牙利
瑞典	七四	西班牙
瑞西	七五	メキシコ
加奈陀	九七	ブラジル
米國	九九	英領印度
丁抹	九九	秘露
濠州	一〇〇	奧地利

935

明治以来の巨漢

大正十二年六月廿日



出羽ヶ嶽事 齊藤文二郎(三十五)
身長六尺六寸六分 体重三十九貫五百匁

太刀山



936

東洋大學騒動

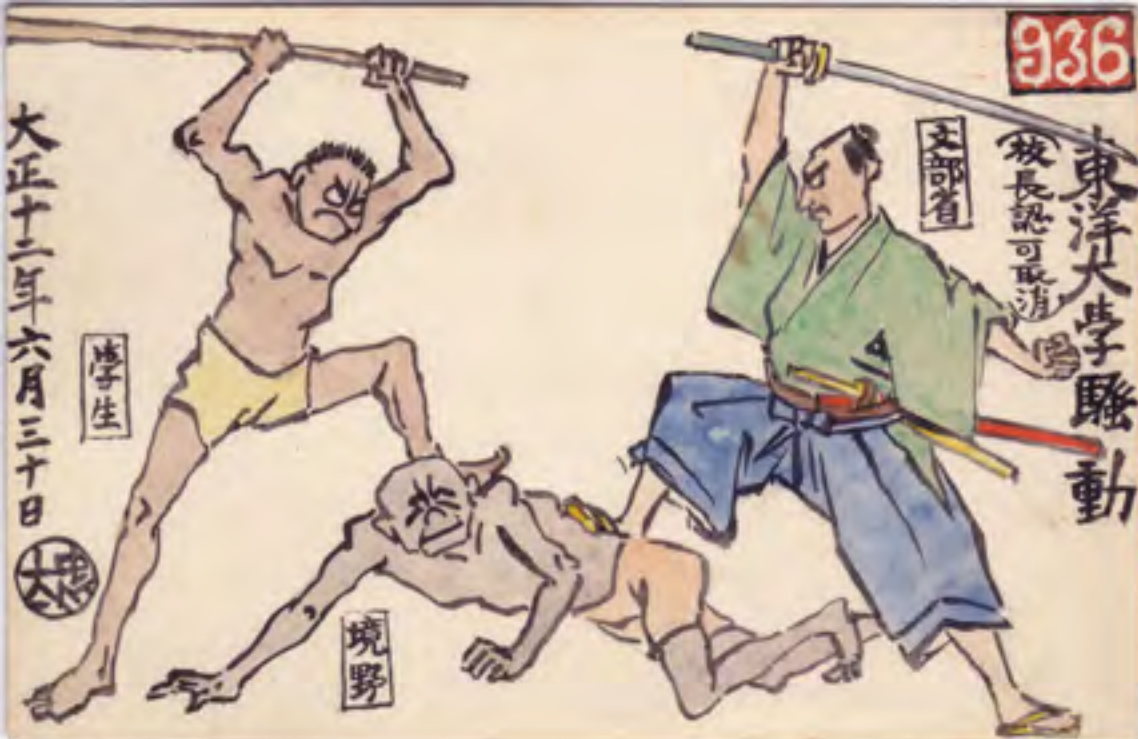
校長認可最速

文部省

大正十二年六月三十日

學生

境野



無產社 (堺利彦)
 赤旗社 (市川, 平林, 西, 上田)
 種蒔社 (小牧, 青野, 津田)
 労働運動社 (大杉榮, 岩佐作太郎)
 農民運動社 (浦田)
 曉民會 (高津, 近藤)
 進歩社 (福田, 北原)
 突破社 (近藤)
 水曜會 (山川均)
 自由人聯盟 (加藤一夫)
 我等社 (長谷川如星, 大山郁夫, 攝田茂藏, 川上肇)
 無產者同盟 (市川正一)

文化同盟 (早稻田大學) (解散)
 社會運動
 防援會
 新思想學生
 聯合會 (各大學々生)
 文化學會 (島中雄三)
 新人會 (赤松克彦, 宮崎龍介, 麻生久, 佐野學)
 建設者同盟 (北沢新次郎, 三宅正一, 中野力三)
 水星會 (金若水, 李鍾範)
 戰線同盟 (中谷幸生, 高尾平兵衛)
 赤瀾會 (山川菊枝, 堺真柄)
 小說家協會 (宮地嘉六, 江口渾)
 水平社 (南梅吉, 阪本清一郎)
 抹殺社

937

社會運動及思想團躰

大正十二年七月二日





日本労働総同盟

純労働者組合

正進會

日本労技會

関東機械工組合

北風會

黒曜會

交通労働組合

造船工組合

小石川労働會

市電相扶會

瓦斯電気技友會

出版従業員組合

関東車輛工組合

北方自治會

信友會

時計工組合

工友會

日本鑛吏総同盟

黒友會

黒涛會

関西労働社

芝浦労働組合

陸軍現業員組合

光學光技會

横浜自由労働組合

日本農民組合



猶存社 (北一輝, 大川周明, 滿川龜太郎)

国粹社 (床次竹次郎)

浪人會 (内田, 頭山)

經倫學盟 (大川周明)

縦横クラブ (佐傳)

国民軍事研究團 (肥田琢児)

大和民衆會

赤化防止團 (米村晋一郎)

局外社 (高島素之)

日の會 (鹿子木員信)

魂の會 (大川周明)

大業社 (松田稔輔, 酒巻)

改造同盟 (永井柳太朗, 中野正剛, 馬場恒吾)

又新會 (外木野平, 永田桐)

皇學會 (日高瓊彦)

大化會 (清水小一郎)

国家社會党

文化生活研究會 (森本厚吉, 有島武郎, 吉野作造)

現場打破運動 (野党及新聞記者)

国風會 (上泉徳弥)

表



有島
 「心の荒廢今日より
 甚しきいふい
 奢修淫佚の尻は
 底止する處を知らぬ
 貞操の觀念は
 地を拂つて消
 滅した



裏

波多野秋子
 「此世の縁は
 碓井川
 ちぎり
 浅間
 岳ふ
 れば



武郎
 浮世を
 あとに
 信濃路や
 今は心か
 輕井澤

大正十二年七月十日

有島武郎

の幽霊

「愛戀は
神聖で
ある。」人の妻でも
娘でも、後
家でも、藝
娼妓でも誰でも

平等である。

只愛の三昧に入り、大歡喜
を享けよ、そして情死する
まで行き、愛の極致は
死である。愛の前は、父母も妻子
も、あゝ、国家も社會もあゝ、
總てのものを超越する愛は
愛の尊嚴がある。アハハハハ、俺を誤解してハ
イケない。棺を覆ふて後定
まるとは、名言じや俺の
本領は今分たろう。

不順の氣候(午後二時六十九度)
大正十二年七月十三日



不順ある氣候

不純ある危行

霏雨林止まず

非倫止まず

寒と害多少

感慨多少



兄弟牆子闘く

(三井家相續争)

大正十二年
七月廿日

944

有島宗信徒激增

大正十二年七月廿三日



有島宗三綱領

一、相手は有妻有婦の
男女たえずきあつと
二、情死すべきあつと
三、遺書は新聞社に送
りて世間を廣告すべき
あつと



945

親和會研究會に併合せらる

大正十二年七月廿五日



福原



946

三笠を救へ
大正十二年七月廿六日



947

皇族登山

秩父宮は錦ヶ岳
摂政官は富士山



大正十二年
七月廿八日



諸藝人の稼高

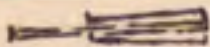
大正十二年七月三十日



諸藝人の稼高
 税務署が苦心の結果俳優其他の藝人收入高
 を正確に調査したが、實に可驚ものがある
 之れ皆風致懷亂費である。

千圓(年收)

八〇	歌舞伎俳優	中村歌右衛門
五〇	新派俳優	井上正夫
四〇	清元	延壽太夫
三〇	長唄	杵屋三郎玉
二五	能楽師	梅若萬三郎
二〇	ハヤシ	望月哲清
二〇	舞臺	永田錦心
一五	女舞臺	中村歌鳥
一五	講談	典山
一三	落語	三遊亭圓右
一三	落語	柳家小さん
一〇	常盤	東家樂樹
八	義太夫	松尾太夫
八	歌澤	登澤松太郎
八	澤	竹本重郎太夫





949

大自在天女

大正十三年八月三日





951

世界の富豪

大正十二年八月七日



氏名

姓

職業

資産(万円単位)

スード

米自動車王

五五〇〇〇

ロックスレー 米石油王

五〇〇〇〇

タトシスター侯 英貴族院議員

一五〇〇〇

ザハロフ 英銀行家

一〇〇〇〇

ステン子ス 獨事業王

一〇〇〇〇

ロックスレーパー 米二代石油王

一〇〇〇〇

岩崎一家 日雑業

一〇〇〇〇

三井一家 日雑業

一〇〇〇〇

バーカー 米銀行家

一〇〇〇〇

バロダ王 印国王 ? 一二〇〇〇

952

華族の數

大正十二年八月八日



爵

戸數

未成年者

未成年者

公

一九

三

侯

三七

四

伯

一〇三

五

三

子

三八一

二八

三

男

四一〇

三〇

七

合計

九五〇

七〇

一三

有爵者

九三七

有位者

三一五

合計

一二五二

大正十二年
八月十一日ヨツ左
又地獄で
逢はう

後藤

「俺ハ極樂の
方へ行くんだ」

川上

「左様あら」



大正十一年八月十日

954



避暑地の為体

大正

955

馬克慘落

クイー 辞職

(一円が百九十万マルク)

大正十二年

八月十五日



恐るべき都市

大正十二年八月十九日



無垢の少年が
田舎から出て
都市の釜の中へ飛び
込み、散々煮られま
て不良青年となり、
ニギビ文士となり、壯士となり、
詐欺、盗賊、姦淫、あらゆる
悪事を働らく有様



病の輕重を問はる
大正十二年八月廿二日

憲政會
首相の病ハ重い



首相



政友會
首相の病ハ軽い

958

華府會議の效果

大正十二年八月二十三日



軍艦を
造る米
国

軍艦を
こめす
日本

砲臺を
造る英国



加藤首相死す

大正十二年八月廿四日



大正十二年秋
八月二十四日

松方正義高橋
是清共謀殺加
藤友三郎群盜
蜂起。物情騷然。

960

火開居して不善を為す

大正十二年八月廿六日



待命陸軍中將
正四位勲一等功三級
前旭川師團長
内野辰次郎閣下



首相候補者

加藤高明

高橋是清

岡野敬次郎

水野鍊太郎

大木遠吉

齊藤實

田健次郎

牧野伸顯

後藤新平

田中義一

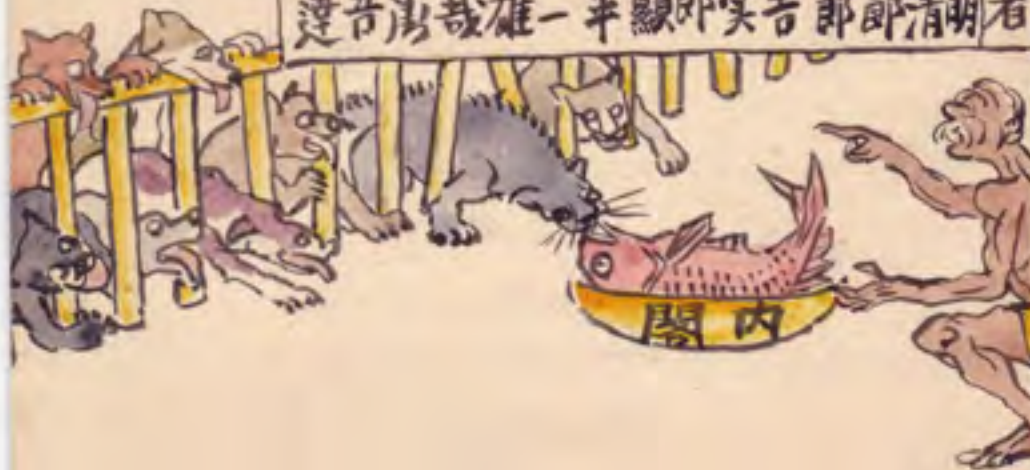
山本達雄

内田康哉

山本權兵衛

清浦奎吾

德川家達



山本權兵衛

諸首領を召致す

山本

コレは、高橋老、
サ、苦しか座らぬ、
スツト進、こふささい。サテ、おのたび、
そまがし、國らず大命

を拜したる上は、

國家を泰山の

安きま置、

歡喜を安

んじ奉らんと

存ずる次第で

御座るが、御邊も

それがしの郎党と

おつて、臂の力を竭して、

異れらまいか。

如何でござる高橋老、

御異存は無い客と存ずるか。

大正十二年八月廿九日



高橋

「御ある御

仰せあそばさ

それがしの一

了簡子力奉

り参りまする。

二百八十名の

同志とも、篤

と相談は仕り、

追て御返詞

申し上げま

當夏の收穫

大正十二年八月三十日



964

東京全滅
(大震災)

大正十二年九月一日



一里
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



最大水平幅	六寸
最大上下高	二寸
潰倒家屋	二万五千
焼失家屋	三十一万
死者	六万
傷者	十五万

大震災被害

麹町	5793
神田	46079
目黒	26020
京橋	28538
芝	15658
麻布	9
赤坂	2272
四谷	874
牛込	4
小石川	956
本郷	5893
下谷	33595
浅草	52883
本所	55300
深川	41888
合	316087

965

関東大震

大正十三年九月一日



大正
十二年
九月三日

山本内閣成る

總理 山本權兵衛

内務 後藤新平

外務 山本權兵衛

司法 平沼騏一郎

文部 岡野敬次郎

大藏 井上準之助

逓信 犬養毅

農商 田健次郎

鐵道 山内一次

陸軍 田中義一

海軍 財部彪

警視總監 湯淺倉平



967

社會主義者と鮮人
大正十二年九月三日



968

大杉榮天誅を蒙る

大正十三年九月十六日



	全面積	焼失面積	割合
麴町	0.5290	0.1174	0.22
神田	0.1993	0.1871	0.94
日本橋	0.1922	0.1922	1.00
京橋	0.2947	0.2532	0.86
芝	0.6088	0.1450	0.24
赤坂	0.2740	0.0198	0.07
麻布	0.2575	0.0001	0.00
四谷	0.1797	0.0039	0.00
牛込	0.3379	0.0002	0.00
小石川	0.4211	0.0172	0.04
本郷	0.3130	0.0552	0.18
下谷	0.3271	0.1560	0.48
浅草	0.3117	0.2991	0.96
本所	0.3940	0.3734	0.95
深川	0.5058	0.4277	0.85
合計	5.1458	2.2475	0.44

969

大火焼失面積(方里)

大正十二年九月十六日



970

レニン號放逐さる
大正十二年九月二十日



レニン
「海見舞」
来れが序
は宣傳の
するんで

日本
畜生
出て行
け



支那官吏成金

大正十二年九月二十二日



曹錕

一億元

潜き付け

たいもの

だ



曹錕

政府の金庫ハ

空っぽだア...



曹錕

五〇〇〇 万元

袁乃寛

三〇〇〇

張廣建

三〇〇〇

王占元

三〇〇〇

靳雲鵬

二〇〇〇

田中玉

一五〇〇

黎元洪

二〇〇

張作霖

五〇〇〇 万元

閻錫

三〇〇〇

梁士詒

三〇〇〇

倪嗣仲

二五〇〇

張鎮芳

一六〇〇

徐世昌

一〇〇〇

972

帝都復興院



大正十二年九月三十日

大森
アレ程
言ひ置い
て行つたのに
鯨の野郎が
俺の留守を
大森目を仕出か
しやがった。
ドモ困った事
もあつた。

大森地震
博士病んで
帰る

大正十二年十月



974

曹錕大總統とある

大正十二年十月七日



975

大學移轉問題

大正十二年十月十四日

蛇

大學都市の

大理想を案

現せむべ

あらぬ

蛇蟪

郊外が

善い

蛙

居据りが

善い



976

江戸東京大火

大正十二年十月十七日



年代	西暦	区域	時間	風位	焼失戸数
明治三、一、十八	一六五七	本郷丸山ヨリ	二日間	北	
元禄二、九、六	一六九八	本郷丸山ヨリ		西南南	
元禄六、二、四	一七〇三	本郷丸山ヨリ		西北	
今、全、全、九	一七〇三	本郷丸山ヨリ		西北	
享保五、三、二七	一七二〇	日本橋ヨリ		西南南	
全、一〇、二、一四	一七二五	青山ヨリ		西南	
全、一三、二、一〇	一七二七	芝浦ヨリ		北	
安永一、二、元	一七七二	千住大橋ヨリ	二四	西南	
寛政四、七、元	一七九二	小石川ヨリ	二〇	南	
文化三、三、四	一八〇六	泉岳寺ヨリ		西南	二七〇、〇〇〇
全、一三、三、二一	一八一五	新橋ヨリ		東北北	
天保九、四、一七	一八三八	小田原ヨリ		東南	
弘化一、一、二四	一八四四	高輪ヨリ	一六	西北北	
全、三、一、二五	一八四五	小石川ヨリ	二三	西北	
安政二、一〇、二	一八五五	随所		西北	
慶應三、二、一、九	一八六六	元湯野ヨリ	一二	西北	
明治九、二、三、九	一八七六	新大塚ヨリ	一一	西北	八五五〇
全、一、二、二、六	一八七九	新大塚ヨリ	八	西北	一〇、四九三
全、一四、一、二、六	一八八一	新大塚ヨリ	一七	西北	一〇、六三七
大正二、九、三、二	一九三三	東京市の東半部	三日間	北	三三〇、〇〇〇

977

世界大震

大正十二年十月十日



年號	西曆	地方	程度
慶長、一七、二	一五九六	京都地方	死者 五千人三百三十一人
寛永、四	一六二七	関東	
元禄、六	一七〇五	関東	
宝永、四、一〇、四	一七〇七	東海道	
文政、二、二、二	一八二六	越後	死者 五千人
弘化、四、三、二四	一八四七	信州	
安政、一、二、四	一八五四	駿遠、参	
全、一、一、五	一八五四	土佐	
全、二、一〇、二	一八五五	江戸	死者 五千人
明治、三三	一八八九	熊本	死者 二万七千
全、二、四	一八九一	濃尾	
全、三、九、四、十	一八九〇	三陸(海啸)	
大正、二、三、九、一	一九二三	関東	
五七七	コンスタンティノブル	死者	一万
一六二六	ナポリ	死者	七万
一六九三	シ、リ	死者	一万
一七〇三	北京	死者	九万六千
一七三一	カイロ	死者	四万九千六千
一七五四	リスボン	死者	五万四千
一七五五	カラカトア	死者	三万六千
一九〇六	サンフランシスコ	死者	十六万四千
一九〇八	ノッシナ	死者	十六万四千

978

東京市街地震震度分布図



大正十二年十月十九日



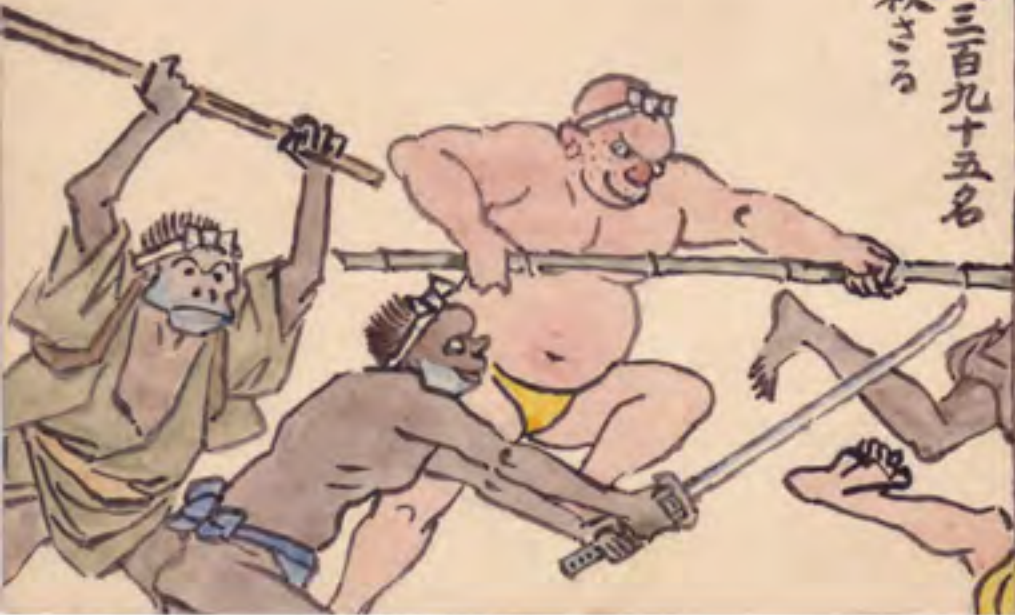
979

自警團と鮮人

大正十二年十月廿日



鮮人三百九十五名
慘殺さる





大正十二年
十一月三日



981

帝都復興計画

大正十二年十月十八日



復興審議會

評議會

「モット大きい
のであけりや
いやだ」

大正十二年十一月二七日

審議會
「コリヤ大き
過ぎる
ぞや」

當秋の牧獲

大正十二年
十月二十日

閑院宮寛子殿下磯部四郎
 山階宮佐紀子殿下園田孝吉
 賀陽宮好子殿下安田義雄
 東久近宮師正王殿下吾妻勝朗
 松岡康毅 今福忍 二條厚基
 大橋重威 黒木欣堂 張勳
 佐永愔憲 厨川白村 南部虎男
 佐藤綱太郎 木下淑走 土井利康
 大杉栄 伊藤野枝 熊谷素
 高見基光 磯部直 大村金一郎
 菊池三九郎 京極高義 山中利兵衛
 岩倉具綱 佐藤友熊 石丸重美
 肥田七郎 野呂景義 岩田一郎
 岩田作英衛 坂本金弥 柳沢光邦
 中谷弘吉 舟木練太郎 水口一
 坂口仁郎 大森房吉 島田三郎
 隈徳三 大谷喜之藏 池田謙三



985 震火災番付

大正十二年十月十一日



三萬餘人死焼きの被服廠

すぐ支拂つた生命保険

八階から折れた 十二階

新規が出来た金庫あけ葉

あふのいて倒れた 丸善

大うそであつた江の島沈没

観音の中利益で救れた浅草寺

無法者のあつた自警団

首の蒸れた 上野大佛

責任の自殺山内相生署長

焼灰が飛んだ 常陸の水戸

救援電報一着北米合衆国

あかぬを打て都落ちの罹災民

懐中へ抱く 禁止寫真

マッ先きあ焼けた 警視廳

田舎嫁さき出かけた藝妓

蒙御免

行冷水で収縮を喰ふ富澤會
司熱定で膨張を叫ぶ
勸進元 帝都復興院
評議會

武蔵司令部

重要書類焼きの諸官衙

中々支拂はあい火災保険

二百五十人を潰れた内外ビル

大道靈々自働車パンダ車

腰を折つた 東京會館

重荷が小づけ 鮮人騷動

北東の威光でも助からず本銀行

意外意外 甘粕事件

でんじくかつた 品川子の銅像

立退かず火を防いだ住友の課長

東京の本事が目へた岩代の福島

半旗を掲げた佛蘭西

潮の如く入つて来た 救護團

暗闇が出る 怪しい女

スリ地震シ火事 南専学校

大阪みどり、長唄師匠

大正十二年十二月十日



987

三傑の今昔目(落ちぶれた大石)
大正十二年十二月十八日

大石

昔

大石
オレは
大臣だ

尾寄
オレは
国葬だ

犬養
コアハ……

今

大石
カラン
奴等

尾寄

何か
面白
とい
ふい
がナ
犬養
面白
コアハ……



988

苦戰

大正十二年十二月十九日



解散か屈従か

大正十三年十二月十九日



政友
シメタ

後藤

削減詰

構大吏

ヤテ行

ける

990

政府政友會子降る

大正十二年十二月十九日

山本

誠心誠意で

降参仕る



991

復興院瓦潰れ

大正十二年十月廿一日



大正二十二年十二月廿九日



山本内閣
七ふ

992



993

この妖魔を退治せよ

大正十三年
一月一日



994

国歩艱難

大正十三年一月二日



995

大命清浦子下る

大正十三年一月一日

「また
流産
じゃあいが

「今度は
大文吏が

「もー直み
産れそーだ





国政請負人

大正十三年一月七日

甲
監督を嚴重
さしあいて不正
工事をやるぞ

請負人名義 清浦奎吾

下 請 人

内務	水野練太郎
外務	松井慶四郎
大藏	勝田主計
司法	鈴木喜三郎
文部	江木千之
農商	前田利定
逓信	藤村義朗
鉄道	小松謙次郎
陸軍	宇垣一成
海軍	村上格一

番頭(輪長) 小橋一太

乙
請負契約
解除が落
ちたろう



『教育改造の
手段』や

學校と火災

大正十三年一月九日



東北大学

東洋女大

高師

大帝

九州大学



1000

政友會分裂す

乙
共倒まだ



甲
奇抜
々々



大正十三年一月十八日

